

YSメソッド 奇跡の実証例

～カルテNo.22～

●受診前／うつ病、多重人格、性同一性障害
を患い、死にたいくらい苦しか
った

↓ ↓ ↓

●受診後／うつ病、多重人格、性同一性障害
がすべて解消！
世界観が変わり、愛情に満ちた
毎日になった！

山下英治さん（仮名・42才）

何をやっても不快

あまり信じてもらえないのですが、僕は赤ちゃんの頃からずっと憂うつでした。常に何かを背負っている感じがして、幼少時代から靈感が強いことにも苦しめられました。

小学校5年生ぐらいから、もう死にたくてしかたがありませんでした。中学、高校と、クラスメイトはみんな楽しそうなのに、僕は死にたいんですね。思いきって友人に、「僕たちって、なんで生きてるんだろう」と聞いたら、「そんなこと考えてる奴はいない」と、あっさり返されてしまいました。

僕だって、命を大切にしなくちゃいけないのは、頭では分かっていたんですけど、体の細胞に、死にたいという衝動が根付いているんです。その衝動を、脳みその自分が全力で羽交い絞めにして、抑えつけていました。

たまりかねた僕が不登校になったのは、中学くらいからでした。それで精神科に行ったのですが、母からは「それよりも学校に行け」と言われてしまいました。高校に通うのも辛くて、4年かかって高校を卒業したと同時に、寝込んでしまったのです。

いつ頃かは断定できませんが、僕はすっかりうつ病になっていました。とにかく何もできなくて、布団から動けませんでした。どうせ動けないならと思って寝てしまうんですが、目が覚めたところでやっぱり動けません。いろいろなものが尖って見え、街に出て人を見ると、みんな敵に見えてイラッとするのです。

家にいるから本を読めばいい、音楽を聞けばいいと人は言いますけれども、何をやっても不快に感じました。

ほとんど外に出られない僕は、隣に住んでいる人のお手伝いで、コンピュータのプログラムを組んでいました。それがきっかけとなって、23才でコンピュータ会社に就職できたのですが、28才の時にとっても忙しくなって、ドロップアウトしてしまいました。大きな病気をして、入院までしたんです。それで癒しを求めて、ハーブティーのお店で働くようになりました。

自分が多重人格（解離性同一性障害）だと分かったのは、ちょうどその頃でした。「あなた、さっきは子どもみたいだったよ」などと、人から言われるようになったのです。それで、専門の精神科にかかりました。

僕の体に乗っ取っていたのは、4人の人格でした。気付いた時には、机の引き出しに4つのスケジュール帳が入っていたのです。もちろん、身に覚えはありませんから、「え？ これ、誰の？」といった具合です。

女性の人格が表に出ていた時、僕は自分のことを女だと思っていました。困ったことにその4人が画策していたのは、性転換して女になることでした。男である僕が、自分のことを女だとしか思えなくなるのは、性同一性障害という別の症状なのですが、これと多重人格の両方になってしまうのは、医学的にはあり得ないことなのだそうです。

なぜなら、多重人格の人が「女になりたい」と言った場合、「それは本当にあなたが言っているのか？」ということになります。だから、診断書が下りないのです。

必死にやるほど人とぶつかる

自分が多重人格になったことにも、僕は理由があると思っています。おそらく、苦しいままの心でいたら死んでしまうので、人格を分散することで、その場をし

のごうとしたのではないでしょうか。

駅のホームにいと電車に飛び込みたくなりましてし、家で包丁を見ると、自分に向けたくなりますから、包丁は見えないところにしまっていました。たくあんも、刃がギザギザのパン切り包丁で切るんです。同居していた母に心配かけたくありませんでしたから、「これだとおいしく切れるんだ」と言ってごまかしていました。

それからは介護ヘルパーの仕事に就いたのですが、ちょっと精神的におかしかったのでしょうか、元々いるヘルパーさんと、もめごとが起きちゃうんですね。だから次の仕事は、誰とも話さなくて済むうえに、ウォーキング代わりに体を動かせばうつ病も治るだろうと、夜間の警備員を選びました。

道路で赤棒を振り、ゴミひとつない現場にしようと思わずに回るまでは良かったのですが、リーダーに抜擢されて駅の担当に回ってから、状況が変わりました。駅は人通りが多いですから、いろんな方と話さなくてはいけなくなったのです。それが苦痛でしようがなく、人の目を見て話すこともできないのに、リーダーになったことも負担でした。

僕も必死にやってるから、認めてもらいたいという思いで、さらにながむしやらになって仕事をしたのですが、職場ではいろんな人と衝突し始めました。人の気持ちを考えられる自分ではなく、はっきり言って友達と呼べる人はひとりもいませんでした。

この時の僕は、性同一性障害とうつ病で、4つの病院に通っていました。とにかく苦しい状態を何とかしようと思った僕は、人とコミュニケーションがとれる唯一の手段であるインターネットで、クリニックについての情報交換をしていました。

そこで、「心の病が2日で治る」と言いきった人がいたのです。それが、YSメソッドを知ったきっかけでした。

世界観が全部変わった！

結論から言えば、YSメソッドを受診したことで、私の人生は180度変わりました。YSメソッドで自分の心を掘り進めて、“本当の自分、である^{いのち}生命の源を自覚した時は、あったかーいものに包まれた感じがしました。そして、今まで誰かをずっと恨んでいた気持ちが、実は僕の間違いだったと気付かされたのです。

僕は、お爺ちゃんのことを恨んでいました。教育委員会のお偉いさんだったお爺ちゃんは、僕のことをかまいすぎて、とにかく「勉強しろ」としか言わない人でした。有名な大学に行かせようとしてのことですが、おかしい悩みをたくさん抱えていた僕がそれを訴えても、お爺ちゃんからすれば、わけが分からなかったのです。

お爺ちゃんは子どもの頃、母親に捨てられて、愛情を知らずに育ったそうです。お爺ちゃんにしてみれば、僕のことを本当にかわいくて、幸せに、立派になってもらいたかったのでしょう。

それなのに、怒られたことや厳しくされたことしか記憶になくて、僕は電話で「お爺ちゃんのせいで、こんな風になったんだ！ どうしてくれるんだ！」と、平気で言い放っていました。でも、受診後は、お爺ちゃんにかわいがってもらっていた記憶がたくさん甦ってきたのです。

お爺ちゃんは、中華街においしい店があるからと僕を連れていってくれました。戦争中、小さい頃から満州にいたお爺ちゃんは、あまり満足にご飯を食べられなかったそうです。だからこそ、僕においしいご飯を食べさせることが喜びだったのでしょう。

とても優しいお爺ちゃんだったのに、僕は気付くことができませんでした。僕が攻撃ばかりしているうちに、お爺ちゃんは亡くなってしまいました。

以前は「何のために生きてるんだろう」と思っていました、YSメソッドを受診したことで、世界観が全部変わり、その答えが見つかりました。今までは全員が敵に見えていたのに、全ての人が味方どころか、自分が守らなくてはいけない対象になったのです。だから、自分がしっかりしなくてはいけないという意識に切り替わったのですが、その途端、うつ病などどこかに行ってしまいました。

それに、受診した日を境に、多重人格も性同一性障害も治って、ひとりの男性に戻れたのです。今の自分こそが、まさに本当の自分で、これまでとは全く違う人生を歩んでいる感じがしています。

母は、僕に対してよく怒りを爆発させていました。以前は僕もまっ正面から爆発し返していたのですが、僕の病気が全部治ってからは、母がいくら爆発しても全く腹が立たなくなりました。それどころか、母がやたらに僕のことを外出に誘い、ドライブに行ったり、新幹線で京都に行ったりと、2人で出かける機会がすごく増えたのです。

初対面での会話に挑む

僕は毎日、全世界の人々、そして全ての動物や植物、昆虫から鉱物にいたるまで、全ての命と魂の幸せを、心から祈るようになりました。虫1匹、花々から何から、生きものの全てが、我が子のようにかわいいのです。

以前は満員電車に乗れなかったのですが、今は仕事に向かう方や帰られる方が、みんなピカピカに輝いて見えます。働いてお子さんを育てられたり、嫌な思いをしながら頑張っておられるだろうと思うと、誰にでも席を譲りたくありません。目の前に現れたどんな人にも、手を合わせて拝みたくなるのです。

これまでは人を避けて生きてきた僕ですが、少しずつ初対面の人と話すようになりました。最初はうまくいきませんでした。それでも心は折れませんでした。「失敗を重ねていくうちに、絶対できるようになる」という強い確信のもと、いろいろな所に顔を出し、果敢に会話を挑んでいきました。

すると、だんだん友達ができてきたのです。そして、みんなが僕に悩みを相談してくれて、感謝までされるようになりました。そうしたら、友達に呼び出されるわ、飲み会やレジャーに誘われるわ、方々から引っ張られて大変な状態になりました。

今では、友人知人から続々とメールが送られてくるのが日常茶飯事になっています。それに、何人もの友達から毎日のように電話がかかっています。

僕は、自分の命よりも友達や、人々のために生きる気持ちが大事でした。人々のためと言えは聞こえはいいですが、それは僕の価値観であって、宗教観を含め、いろいろなものを執着として握りしめていたのです。

頭で考えていた、そういう難しいことを、さらにYSメソッドを受診することで、全部きれいに捨てることができました。

365日、笑いが止まらない！

僕は、図書館で本を読むのが大好きなのですが、一日中、何かを自由に勉強しているうちに、仕事をしたくなくなってしまう時がありました。極端な話、うつ病を口実にすれば、毎日そういう生活を送ることもできます。そんな生活を想像した途端、急に体のあちこちが痛くなってきて、気分がうつ病状態にまで落ち込んだのです。

そんな心身の状態が、図書館に行くと良くなるんです。僕は、「あれ？ これはうつ病じゃないな」と気付きました。自分が逃げているから、体調に影響が出たのです。

しかし、気付いただけではどうにもなりません。このうつ病の状態と、仕事に対する悩みをスッキリさせたくて、僕はYSメソッドのカウンセラーに会いに行きました。悩み相談のはずが、ここまで良くなった感謝の意を伝えたいという思いが先立った僕は、会ってすぐ「本当に命拾いをしました。ありがとうございました」と、頭を下げていました。

すると、その途端にうつ病の症状も悩みも吹き飛んで、霧が晴れたように気分爽快になりました。時間は5分もかかりませんでした。笑顔でお話をさせていただいた僕は、心の底から元気一杯になりました。

僕は今、365日まるまる、毎日が楽しくて仕方がありません。「笑いが止まらない」と言うと大げさに聞こえるでしょうか？ 気が付けば、大勢の友達がいま。そして、雲ひとつない空のように、スカッとした気持ちの良い日々が続いています。

もし、YSメソッドに出会っていなければ、僕は自ら命を絶っていてもおかしくありませんでした。受診後、どれだけ良い方向に変化したかは、語っても語り尽くせません。

今日も、優雅で愛情に包まれ、満たされた時間が続いています。

●受診前

1. うつ病、多重人格、性同一性障害に悩んでいた
2. 人が敵に見えて、職場でぶつかっていた
3. お爺ちゃんを恨んでいた
4. 友達と呼べる人がいなかった

↓ ↓ ↓

●受診後

1. うつ病、多重人格、性同一性障害が全て治った
2. 全ての命と魂の幸せを祈るようになった
3. お爺ちゃんから愛されていたことに気付いた
4. 大勢の友達ができる

【お問い合わせ】

YSこころのクリニック

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-2-6 岩上ビル 4F

TEL 03-5204-2239

HP <http://shingaclinic.com/>

E-mail info@shingaclinic.com/

企業のメンタルヘルス対策はこちらまで

YSメンタルヘルス株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-4-15 八重洲通ビル 6F

TEL 03-5204-2048

HP <http://www.ysmh.co.jp>

E-mail info@ysmh.co.jp